

第38回

やまなみ大学

聴講のお誘い



「みんなの明日をみんなの手で創りましょう」を合言葉に“やまなみ大学”が開かれ、毎回好評をいただく中、今年度で38回を迎えることとなりました。

この「やまなみ大学」は、日頃から野尻高原大学村で思索を深められ、信濃町に思いを寄せていただいております皆様方のご支援をいただくなかで開催をしております。

それぞれの分野でご活躍されている先生方が、わかりやすく講演いたしますので、ご近所お誘いあつてご聴講くださいますようご案内申し上げます。

記

主 催 信濃町公民館本館・一般社団法人野尻高原大学村
 期 日 令和元年8月2日(金)、6日(火)、8日(木)
 会 場 信濃町立総合会館
 受講無料 各講座、自由に参加することができます。
 問合せ先 信濃町立総合会館 ☎255-3135

日程・講義題名

講義番号	開催日	会場・時間	講義題名	講 師
第1講座	8月2日(金)	総合会館 15:00~16:30	「信州が海だったころ」	野尻湖ナウマンゾウ博物館 学芸員 関 めぐみ 先生
第2講座	8月6日(火)	総合会館 15:00~16:30	「米海軍電報綴から見た フィリピン沖海戦」	元朝日新聞記者 渡辺 圭司 先生
第3講座	8月8日(木)	総合会館 15:00~16:30	「音のビタミン」 ～ハイパーソニック・エフェクト～	(国研)国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第七部 部長 本田 学 先生

「信州が海だったころ」

関 めぐみ 先生



斑尾山や黒姫山といった火山や野尻湖ができ、現在の景観となる以前、今から数百万年前に、信州には海が広がっていました。東北日本と西南日本の境に位置し、周辺地域との地質学的な違いからフォッサマグナと呼ばれる場所にあたります。戸隠山の山中からは海洋に生息する魚や貝などの生物の化石が数多く発見されています。また化石だけでなく地層そのものにも当時の海がどのような環境だったのかを知るための様々な証拠が残されています。

県内各地で発見された化石や地層が物語る歴史を読み解きながら、信州が海だった時代から現在に至るまでのダイナミックな大地の動きについてご紹介します。

「米海軍電報綴から見たフィリピン沖海戦」

渡辺 圭司 先生



1944(昭和19)年10月、日米両海軍が戦ったフィリピン沖海戦を米第3艦隊の活動報告と電報綴から読み解きます。日本艦隊発見の潜水艦データー第1報など第1次資料は戦場の実相を語ります。叻作戦で米機動部隊の3個ある任務群は北上する…ニミッツ太平洋方面最高司令官が発した電報「Where is Task Force 34? The World Wonders」(第34任務部隊はいずこに。全世界は知りたがっている)は有名です。「The World Wonders」は英詩人テニソンの「軽騎兵の突撃」の一節です。クリミア戦争で英軽騎兵隊はロシア軍に無謀な突撃をし、敗北しますが、ニミッツ電文は「無能な指揮官の下に戦う兵士」を踏まえた、と引用されます。戦後生まれの政治家が軽々に「戦争」を口走り、憲法に手を入れようとする今、「戦争」を考える一石になれば、と

思います。

「音のビタミン」～ハイパーソニック・エフェクト～

本田 学 先生



私たちをとりまく物質の世界には、ビタミンのように健康に生きていくために必要な「必須栄養」があります。一方、私たちが五感で感じる情報の世界にも、健康に生きていくために必要な「必須情報」があるのかどうかについては、これまで科学的に調べられてきませんでした。大橋力を中心とする私たちの研究チームは、人類の進化のゆりかごとなった熱帯雨林の自然環境の中には、人間の耳では音として感じることのできない高い周波数の音の成分が満ちあふれているのに対して、都市の人工的な環境の中にはほとんど含まれないことを発見しました。さらに、こうした高い周波数成分を含んだ音は、健康の脳機能と美と快感の脳機能を一緒に高めることを解明

し、ハイパーソニック・エフェクトと名付けました。ハイパーソニック・エフェクトは、まるでビタミンのように、私たちが健康を維持するうえで欠かせないものである可能性が濃厚です。この講演では、音のビタミン～ハイパーソニック・エフェクト～と、それを応用した脳と心の病に対する新しい治療法の開発についてご紹介します。